vinetur

カザフスタンのワイン販売、1～8月に12%減

国内生産が17.2%減と輸入の2.2%減を上回る落ち込みとなり、輸入ワインは供給量の39%を占めた

2026年11月10日（火）



カザフスタンのワイン販売は1～8月に前年同期比12%減少した。一方、国内生産が輸入品の出荷を大幅に上回るペースで落ち込んだため、国内で供給されるワインに占める輸入品の割合は上昇した。

The Astana Timesが火曜日に報じ、11月4日付のEnergypromの分析でも引用したカザフスタン国家統計局のデータは、ワイン市場全体の縮小を示している。国内のワイン生産量は前年同期比17.2%減少した。ワインの輸入も減少したが、減少幅は2.2%にとどまり、輸入品の市場における相対的な比重は高まった。

Energypromが引用したデータによると、市場供給量に占める輸入ワインの割合は前年同期の35.2%

から39％に上昇し、3.8ポイント増加した。これは、縮小する市場の中で競争上の位置づけが変化したことを示している。輸入ワインの数量も減少したが、地元生産者の落ち込みはそれを上回った。

公表された数値には、販売・生産・輸入されたワインの実量が含まれておらず、販売減少をリットル単位で示すことはできない。このため、報道で示された情報から減少規模を測るには、割合を用いるほかない。

消費者価格も上昇した。報道で引用された統計によると、カザフスタンのワイン価格は9月に前年同月比12.8％上昇した。アルコール飲料全体では、9月の価格が前年同月比14.8％上昇した。こうした数値からは、価格上昇とワイン販売の減少が同時に起きたことが分かるが、価格上昇が減少を招いたとまでは言えない。販売データの対象期間は1〜8月で、価格データは9月のものであり、報道にはワイン販売の月次比較データも示されていない。

ワインのデータは、カザフスタンのアルコール市場全体の減速の一環だった。The Astana Timesの報道によると、1〜8月のビール販売は5％減少し、コニャック販売は41.9％減った一方、ウォッカ販売は4.5％増加した。この動きからは、消費者がアルコール全般の消費を一律に減らすのではなく、市場内で支出先を移した可能性がうかがえる。

他の分野でも、生産と輸入の動向に圧力が表れた。Energypromによると、コニャックの生産量は41.9％減の520万リットルとなり、輸入も41.5％減少した。その結果、国内生産者の市場シェアは78.5％となった。ビールの生産量は6％減の4億4,500万リットルで、国内販売量の4億8,230万リットルを下回った。これに伴い、市場供給量に占める輸入ビールの割合は10％から10.4％に上昇し、ビール輸出は22.6％減少した。

同じ報道で引用された家計支出データも、需要の弱まりを示している。The Astana Timesによると、上半期のアルコール飲料への支出は4％減少し、減少傾向が続いた。

ワイン市場で重要なのは、輸入量が増えたことではなく、市場の縮小に伴って輸入品の占める割合が高まったことだ。国内生産の減少幅が輸入の減少幅を大きく上回ったため、輸入量自体は前年を下回ったものの、供給量に占める輸入品の比率は上昇した。

The Astana Timesが引用した数値は、公式統計に基づく二次報道によるもので、Energypromの分析も国家統計局のデータを二次的に解釈したものだ。多くの業務統計と同様、基礎となる数値は後日改定される可能性がある。また、輸入品の割合は確定した小売販売量ではなく、市場供給量を基準としている。実際に消費者が店舗で購入した市場の規模を判断するうえでは、この違いが重要となる。